

令和4年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	06	02	01	164370	森林保全啓発事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	01 農林業の振興	
	施策	05	森林の保全			
目的	森林の保全を推進するため、森林に触れる活動を展開し意識啓発を図る。					
対象	森林整備の関わりについて啓蒙普及を推進、実践したい市民					
意図	森林保全の意識啓発と森林保全活動の普及をする。					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意識啓発のためのイベント開催 3,878千円 林業（植樹）体験 自然観察会 親子木工教室 スモールフォレストカレッジ 安全講習</li> <li>○森林・山村多面的機能発揮対策事業交付金 1,542千円 市内で活動している里山整備等の団体への補助</li> </ul>					
市民参画の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	各種イベントの開催回数	回	計画	6.00	6.00	
			実績	2.00	3.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	各種イベント総参加人数	人	目標	310.00	310.00	
			実績	152.00	137.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	<input type="radio"/>	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
森林保全について啓発するため、各種イベントを開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一部イベントを中止・規模縮小などを行ったため、目標指数には至らなかったが、今後、子どもたちを対象とした植樹体験や親子木工体験教室なども市民の森林に対する意識啓発を図る必要があることから、継続して実施する必要がある。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	本事業は森林保全の推進により、社会的に求められている森林多面的機能の発揮を目的としており妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	イベントの内容を充実させるとともに、周知活動に力を入れることで成果を向上させることが可能と思われる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	地域活動、ボランティア活動への支援により、コスト抑制に努めている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	市民全体を対象とした事業である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	<input type="radio"/> 適正である	
	今年度の振り返り	山の手入れ作業や森林の恵みを体験するイベントを通して、森林についての理解を深めた。
次年度に向けて	森林に触れる各種イベントを開催し、森林多面的機能への理解、意識啓発を促していく。	

令和4年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	06	02	02	164420	森林環境保全事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	01 農林業の振興	
	施策	05	森林の保全			
目的	民有林の保全					
対象	民有林（市有林、私有林）およびその赤松					
意図	民有林を保全する					
事業概要	<p>○森林病虫害駆除 23,786千円 赤松枯損木の伐倒駆除（焼却またはくん蒸） 市有赤松への薬剤樹幹注入作業 森林整備事業による樹種転換（市有林） 私有林赤松への樹幹注入に係る補助</p> <p>○森林管理維持増進 2,090千円 私有地の巡視</p>					
市民参画の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	駆除材積	m3	計画	1,100.00	1,000.00	
			実績	975.00	438.47	
2	私有林巡回回数	回	計画	168.00	168.00	
			実績	168.00	168.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	松くい虫被害量	m3	目標	3,600.00	3,400.00	
			実績	2,100.00	1,284.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	○	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
市内全域に松くい虫被害が蔓延し、県が定める被害地域区分も先端地域から高被害地域へ変更となった。限られた予算と投下できる作業量から全量駆除は困難であり、被害が激減することはないと考えられる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	森林の機能維持、林業振興の妨げになる森林病虫害であるため駆除は必要。また、市街地における生活の支障になる倒木の発生を防ぐ観点からも必要な事業である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	被害対策防止のためのあらゆる対策を講じているが、被害量が多すぎて根絶は困難である。しかし、事業を中断することは森林の荒廃や林業振興の停滞、市民生活に支障を及ぼす危険な枯損木の増加につながるため、被害拡大防止のために事業継続が必要である。
	向上余地がある	
	○ 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	被害の蔓延化により、補助金の確保が困難になっている。駆除の方法や区域の見直しを検討し、効率的な面的駆除を進める。
	○ 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	どちらも削減余地がない	市内全域で駆除しているので適正である。
	受益と負担の適正化余地	
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	費用負担の見直し余地がある	○ 適正である
	○ 適正である	
	今年度の振り返り	
次年度に向けて	被害の蔓延化により、補助金の確保が困難になっている。駆除の方法や区域の見直し、計画的・効率的な駆除を進める。（面的な駆除等） 防除対策への転換が必要であることから、守るべき松林への樹幹注入、樹種転換など市有林において率先して進める。樹種転換による伐採木のさらなる有効活用を図る。	